

平成22年度県外視察の報告

訪問日時：平成22年8月26日～8月27日

訪問者：中村 洋（県立明桜館高等学校）

成尾 仁子（県立鹿兒島東高等学校）

岩切 隆宏（県立鹿兒島南学校）

* 所属は訪問当時

平成22年度の研修部事業計画には、研修活動の活性化を挙げていました。その中でも若年層育成の取組強化は必要に迫られており、また、研究大会のメインである研究発表のあり方・テーマ設定・内容の充実も最重要課題でした。その目的達成の一助として、他県の研修活動等の実態を知る必要があり、その手立てとして、他県へのアンケート依頼よりは、「百聞は一見にしかず」という諺のとおり、直接に県外視察をする方が有益と思われました。そこで、県外視察を計画し、その担当班を研修部内に発足させたのです。

視察対象となる県の選出には難航しましたが、多くの方の助言もあり、千葉県と静岡県に決定しました。両県とも、研修体制が確立されているとともに研究発表内容が充実しているのが、選定理由でした。次に、研修会に参加できる時期での訪問を希望して、訪問先両県の協会長に打診したところ、静岡県の研究大会への参加を了承していただきました。その際、研究大会参加だけでは知り得ない生の声を聞く為、教育懇談会への参加もお願いしたところ、静岡県協会の快諾を得ることができました。

この研究大会及び教育懇談会への参加をメインとして研修視察計画をたて、千葉県にはその前後で日程調整をした上でお互いの意見交換会の場を設定していただきました。そこで、来訪目的を明確に相手に理解してもらうとともに時間の効率化を図るために、事前に質問事項を送付し、回答を依頼することにしました。

平成22年8月26日、千葉県立中学校・千葉高等学校（中高一貫校）を訪問しました。事前に送付していた質問事項に沿い、千葉県の現状について話を伺いました。

千葉県公立高等学校事務職員会は、右表（資料①）のとおり14の支部に分かれていて、加盟校は合計165校。在職する事務職員は735名で、男性307名(41.8%)、女性428名(58.2%)。(H22.4.1現在)

研修会は支部ごとに開催し、回数は、各支部に一任していますが、年に3～8回。研究発表の当番地区は必然的に多くなるそうです。日時も各支部に一任されていますが、午後からの半日開催がほとんど。各学校より担当者を1名決定して研修を実施し

資料① 千葉県支部別加盟校数内訳

支部名	学 校 数			計
	県立高校	市立高校	特別支援学校	
1 千葉南部	10		4	14
2 千葉北部	10	2	1	13
3 船 橋	16	2	2	20
4 市 川	10		1	11
5 松 戸	10	1	2	13
6 東葛飾南部	11	1	2	14
7 東葛飾北部	7		2	9
8 印 旛	14		4	18
9 東 総	9	1	3	13
10 山 武	6		1	7
11 長 岡	8		2	10
12 安 房	4		2	6
13 石 塚	6		2	10
14 市 原	6		1	7
計	129	7	29	165

ています。研修内容については、年に3回発行される広報誌で紹介していました。

研究発表は、3年に1回のペースで各支部が担当しています。学校の統合により学校数が減少したために支部の統合もあり、平成13年度から、それまでの2年に1回から3年に1回のペースに変更したそうです。

参加者は、1校1人の参加をお願いしているにも拘わらず減少しており、参加率の低下が問題となっています。この参加率低下の原因として配置事務職員の減少も挙げられますが、大きな要因には県の採用区分の事情があるようです。千葉県では、平成4年より採用区分が「行政」のみとなり、人事異動が流動的となっています。学校現場での職務に対しては意識が低くなってしまいう職員もいて、モチベーションの維持・向上が困難になっているそうです。

研究発表のテーマ選別においても、人事異動・人事交流を考慮して、その時々を担当者で協議せざるを得ない実情もあり、苦慮しているとのことでした。

8月27日、静岡県公立高等学校事務職員協会研究発表大会に参加しました。

静岡県は、下表(資料②)のように東部・中部・西部の3支部を設け、更に16の地区割をしています。

資料② 静岡県支部の所属地区割

支 部	地 区
東 部	伊東・賀茂 三島・田方 沼津・駿東 富士・富士宮
中 部	静岡東 静岡西 志 太 椋 原
西 部	掛 川 磐 田 浜松南部 浜松北部

研修は、地区ごとに事務職員協会と事務長会が合同で実施しています。また、下表(資料③)のように8つの専門委員会を設置し、

年4回～6回の研修を行っています。開催日時・内容は支部ごとに決められているそうです。研究発表や講話だけではなく、最低1回は球技大会等の厚生事業を設けたりし、参加者がリフレッシュできる環境づくりにも努力しているようでした。

また、支部で開催される研究会の他にも、参加が義務づけられた

資料③ 静岡県専門委員会の構成について

委員会名	東 部		中 部		西 部		本部	計
	事務長	主任等	事務長	主任等	事務長	主任等		
広報委員会	委員長						1人	10人
	委員(広報)	1人		1人		1人		
	委員(情報)	2人		2人		2人		
研修委員会	委員長				1人			6人
	委員	1人	1人	1人	1人	1人		
研究調査委員会	委員長		1人					10人
	委員		3人		3人	3人		
事務進捗改訂委員会	委員長				1人			10人
	委員		3人		3人	3人		
特別支援学校研究委員会	委員長※	()	()					8人
	委員		2人		2人	2人		
事務改善委員会	委員長	1人						12人
	委員		3人	1人	3人	1人		
制度・財務委員会	委員長※							12人
	委員	2人	2人	2人	2人	2人		
学校運営に関する問題調査委員会	委員長						1人	7人
	委員	2人		2人		2人		

※ 委員長補欠部分は互選による。

職務研修、希望者が参加するパソコン研修やマネジメント研修、民間企業研修が20講座もあり、平均20名ほどの参加者がいるそうです。

支部で開催される研修会の回数、専門委員会の回数や設置された組織等が多いようですが、これは事務職員同士の横の繋がりを重視するためであり、各会員のメンタル面のケアも含め、職員の情報交換会という性質もあるためということでした。また、業務についての「知恵」を増やし様々な局面での応用力を養ったり、職場の中核として期待される中堅職員の「モチベーション」を向上させたりする目的もあるそうです。

地区ごとに運営される上記の専門委員会や地区割の研修組織とは別に同世代同士の研修会も積極的に行っているようでした。

研究発表は各支部から1地区が当番します。ただし、全国大会への発表用に、これとは別にテーマ選別、作成をしています。

県内の大会で発表されるものについては、委員5名程度と顧問事務長1名で構成される当番地区の「研究推進委員会」がテーマ決定及び研究の推進を担当します。そして、輪番制で担当となる地区から選出される「研究調査委員会」5名～6名程度が作成、発表するのです。

テーマについては「1事務室1提案運動」によって集められた事務室提案書（別添資料）の中から選出するようになっていました。

我々が参加した研究発表大会の日程は右図（資料④）のとおりです。

研究発表の発表者は、新規採用者か、採用後2～3年程度の職員ばかりで、日頃の実務から生まれる素朴な疑問から端を発しているようなテーマで、初々しさが溢れるものばかりだったのが、印象的でした。これには、若年層職員の職務への「自信」を養うという狙いがあるようです。

資料④ 静岡県研究発表大会次第

開会式 (10:10～10:30)

- 1 開会のことば
- 2 会長あいさつ
- 3 顧問校長あいさつ

記念講演 (10:30～12:00)

講師 法政大学 准教授 杉本龍男氏

演題 「現代社会におけるスポーツ」

— 昼食・休憩 (12:00～13:00) —

研究発表 (13:00～14:30)

京師支部 (沼津・駿東、富士・富士宮地区)

「年度当初事務マニュアル」

西部支部 (浜松北地区)

「新規採用者・臨時職員のための学校事務マニュアル」

中部支部 (静岡地区)

「ワーク・ライフ・バランスのススメ ～デキル教職員は〇〇〇～」

— 休憩 (14:30～14:45) —

指導講話 (14:45～15:45)

講師 安倍 徹 教育長

演題 「学校教育に携わる者として」

教育委員会所管事項 (15:45～16:15)

閉会式 (16:15～16:20)

以前、授業料徴収に関するマニュアルを研究発表で作成して、それに則って業務を遂行したところ、実際に徴収率が上昇したという。そのような目に見える成果こそが自信となり、事務職員としての成長となるという話が非常に印象に残っています。

全国大会用の研究発表については、各支部から選出される「県専門委員会としての研究調査委員会」が担当して、県の研究大会の研究発表とは別に作成しているのですが、このことから、県の研究発表大会での研究発表が長期的視野での若年層育成の場として重視されていることが伺えると思いました。

千葉県・静岡県状況を視察してきて思うのは、モチベーションというものが重要だということです。静岡でも知事部局との人事交流は盛んであるが、千葉県の現状とは異なって、その経歴を自信として学校現場の職務に還元させていることが、情報交換会で伺った話からも伝わってきました。

他県の模倣をすれば巧くいくという訳ではありません。以前、就学奨励費に関する県外視察で大阪府立視覚支援学校の校長も話していましたが、その地域に定着した県民性等にあわせやり方が異なることもあるし、鹿児島には「離島」という地理的な条件もあります。採用の形態等で困難な問題もあるかもしれません。ただ、現在の職場以外の方法や状況を見聞し、自分の情報量を増加させることにより自信も増加し、モチベーションも向上することを目的に、様々な研修会を企画していくことは、鹿児島県の事務職員協会の活性化の為にも重要になってくるはずです。そして、それを実現するには、支部ごとの活動がより活発になることが必要だと思います。実際に運営をしていくにあたり、様々な問題もあるかもしれませんが、鹿児島県公立学校事務職員協会の若手代表として視察に行かせていただいた以上、協会の発展の為に尽力していきたいと思っておりますので、いろいろと教示をいただければ幸いです。

様式

事務室提案書

学校番号

学校名

提案の件名	来客者名簿記入方法の見直し		
現状の方法と状態	簿冊への記入をお願いしていた。		
その問題点	他の来客者の訪問記録を閲覧出来るため、個人情報保護の問題が生じる。		
改革案・改善策(どのように変えるのか)	来客者名簿を簿冊ではなく一枚の用紙にし、中を見ることの出来ない箱の中に入れてもらうことにした。		
その予想効果	個人情報の保護ができる		
条件整備等の課題	なし		
	処理担当所属(代表所属に口印)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 1 全所属 <input type="checkbox"/> 2 事務職員協会 (委員会) <input type="checkbox"/> 3 教育委員会 (課) <input type="checkbox"/> 4 その他 ()		
※企画調査委員会記入欄	※処理担当所属記入欄(該当に○印)		
1 実現に向けて検討を要する	1 実現済	3 業務の参考	
2 担当所属の見解を要する	2 実現処理中	4 実現困難	
<input checked="" type="checkbox"/> 3 関係所属に情報提供	(コメント) []		
4 内容を再検討する必要あり			

